

学芸員が毎月行っている手賀沼の鳥類調査の結果です。

科名	種名	個体数(羽)							総計
		6月	7月	8月	9月	10月	11月		
カモ科	オカヨシガモ							8	8
	ヒドリガモ					143	35	178	
	マガモ					343	538	881	
	カルガモ	7	7	19	118	481	278	910	
	ハシビロガモ					3	2	5	
	オナガガモ					12	13	25	
	コガモ				188	495	333	1016	
	ホシハジロ					3	13	16	
	キンクロハジロ						2	2	
	スズガモ						3	3	
カイツブリ科	カイツブリ	10	13	9	31	69	61	193	
	カンムリカイツブリ	1				26	207	234	
	ハジロカイツブリ					4	16	20	
ウ科	カワウ	82	78	149	88	119	87	603	
サギ科	ゴイサギ		1	1	3	2		7	
	アオサギ	5	7	8	18	8	26	72	
	ダイサギ	2	2	9	21	11	14	59	
	チュウサギ		1	10	22		1	34	
	コサギ		11	5	18	21	16	71	
クイナ科	クイナ						2	2	
	ヒクイナ				2	4	6	12	
	バン			1		2	2	5	
	オオバン	2	7	5	3	85	130	232	
シギ科	タシギ				2			2	
	イソシギ		1		1			2	
カモメ科	ユリカモメ				4	7	7	18	
	セグロカモメ						1	1	
	ニシセグロカモメ					1	1	2	
	クロハラアジサシ			1				1	
	コアジサシ	5						5	
ミサゴ科	ミサゴ				2	2	1	5	
タカ科	トビ	1	1	2	4		1	9	
	チュウヒ					1		1	
	ハイタカ						1	1	
	サシバ			1				1	
カワセミ科	カワセミ	3	4	4	5	7	1	24	
カラス科	ハシボソガラス	2				4	2	8	
ツバメ科	ツバメ		1					1	
セキレイ科	ハクセキレイ					1	1	2	
13科	39種	120	134	224	530	1854	1809	4671	
外来種	コブハクチョウ	18	15	5	11	4	6	59	

調査日:2021年6月16日、7月20日、8月18日、9月29日、10月27日、11月19日
(9:00~12:00)



カイツブリ (6月)



チュウサギ (9月)



ゴイサギ (9月)



ミサゴ (11月)



マガモ (11月)

写真は調査区外で撮られたものもあります

あびこ鳥だより

2022
No.1

ABIKO BIRD MUSEUM LETTER Vol.61



特集「手賀沼のコブハクチョウの個体数変化と手賀沼からの分散例(続報)」

表紙の鳥 セグロセキレイ

手賀沼のコブハクチョウの個体数変化と手賀沼からの分散例（続報）

コブハクチョウ *Cygnus olor* は大型のカモ科の鳥です。日本国内では主に飼鳥として持ち込まれたものが放鳥されたり逃げ出したりして定着している外来生物で、農業被害や生態系への悪影響が報告されています。2019年春号の鳥だよりで、これまでの手賀沼での個体数の変化や、2018年に標識した個体の分散の事例についてご報告しました(小田谷 2019)。その後の調査で得られた情報について、最新の情報をお知らせします。

手賀沼のコブハクチョウは、1973年に初めて記録され、1990年に初めて繁殖が確認されてから、2019年まで個体数の増加が続いてきました。しかし、2020年の夏から秋にかけて、手賀沼内の個体数が急激に減少したことがわかりました。もともと手賀沼内の個体数は夏にやや少なく、冬に最も多くなる傾向がありましたが、2020年は秋になっても個体数が増えず、2020/21年の冬の最大個体数は2021年3月の34羽にとどまりました(2019/20年の冬の最大個体数は2020年2月の73羽)。月平均個体数も、2019年には48羽だったものが、2020年には28羽、2021年には17羽になりました(図)。

この急激な個体数の減少のはっきりした原因は不明ですが、2020年夏に下沼の岩井新田周辺にあったハス群落が消失したことや、新型コロナウイルスの感染拡大に伴って手賀沼内での給餌する人が減少したことが考えられます。さらに、手賀沼から5kmほどの距離にある印西市発作地区の下手賀川では、一部の市民による積極的な給餌が行われており、2020年から2021年にかけて100~150羽ほどの大きな集団が観察されるようになりました(写真1)。この場所と手賀沼のコブハクチョウは互いに行き来していることが、標識個体の移動からもわかっています。これらのことから、手賀沼内にいたコブハクチョウの多くはこの場所に移動したのだと考えられます。

鳥の博物館では、山階鳥類研究所と協力してコブハクチョウに首環と足環を標識し、個体識別による移動の調査を行っています。手賀沼で2018年に標識したコブハクチョウのうち1羽(JK61)が利根川の50kmほど下流側の香取市に移動したことはあびこ鳥だよりの2019年春号(小田谷 2019)で報告しました。その後、JK61は2019年5月にさらに下流の銚子市まで移動した後、2020年1月には再び香取市に戻って、その周辺に

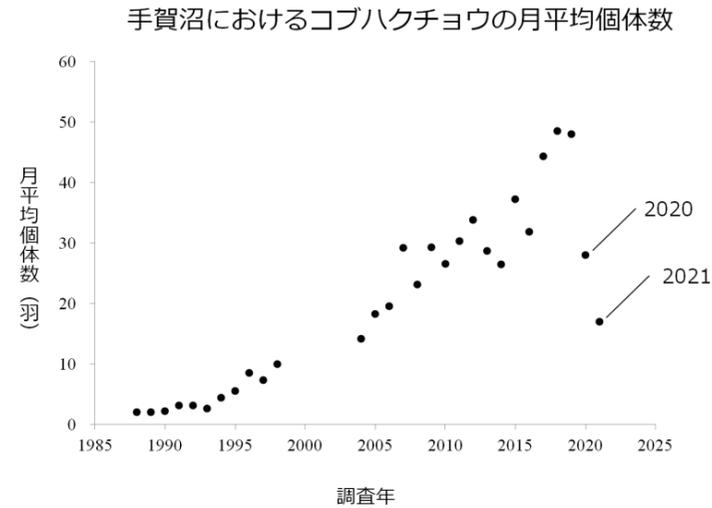


図. 手賀沼におけるコブハクチョウの月平均個体数。年間ののべ個体数を調査回数で割ったもの。1999年から2003年には調査が行われていない。2020年と2021年に個体数が急激に減少したことがわかる。



写真1: 給餌場所に集まるコブハクチョウ。この日は142羽を数えた。2021年1月 千葉県印西市

定着していました。2021年の5月には、JK61とつがいになっている雌が6卵を抱卵し、JK61が巣の周囲を防衛している様子が観察されました(写真2)、その後繁殖は失敗したようです。これは、手賀沼から分散した個体が別の場所で繁殖した初めての記録です。さらに、2021年12月には手賀沼・手賀川において同様に合計11羽への標識を行ったところ、そのうちの1羽であるJK80が、標識後18日が経過した12月20日に香取市で発見されました。利根川下流域への分散は、引き続き起こっている可能性があり、今後も注目したいと思います。

コブハクチョウは環境省の「生態系被害防止外来種リスト」に掲載されている侵略的外来種で、社会全体で個体数の増加や分布の拡大を抑える対策が求められています(環境省 2015)。今回、給餌が行われている発作地区への移動の傾向が確認され、手賀沼内での個体数は減少しました。しかし、給餌によって短期的に狭い範囲の個体数を減らすことができて、長期的な広い範囲での個体数の管理をすることは困難です。また、冬期の生存率を高めてしまうことで、今回標識調査によって確認されたような他所への分散を促進することになります。分布の拡大や全体の個体数の増加につながらないよう、適切な管理を行っていく必要があると考えられます。最後になりますが、標識個体の情報をお寄せいただいた皆様にお礼を申し上げます。



写真2: 千葉県香取市の農地の水路脇で繁殖したJK61(右)とそのつがい相手の雌(左)。2021年5月

引用文献: 環境省 (2015) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(生態系被害防止外来種リスト). 環境省, 東京.
小田谷嘉弥 (2019) 手賀沼のコブハクチョウの個体数変化と手賀沼からの分散例. あびこ鳥だより 54: 2.

最新情報

日本の鳥コーナーが期間限定でオープンします

1990年5月22日に開館した我孫子市鳥の博物館は、開館以来、身近な生き物である鳥について理解を深めてもらえるように、日本産鳥類全種のはく製標本の収集を目標に資料収集を進めています。その結果、これまでに日本産鳥類633種の約6割にあたる385種の標本を収蔵しています。今回の展示では、これらの標本をできるだけ多く展示し、多様な日本の鳥をご紹介します。

開催期間: 2022年2月5日(土)~6月26日(日)



前回の日本の鳥展の様子

博物館ご利用案内

- 開館時間 午前9時30分~午後4時30分
- 休館日 月曜日(祝日の場合は翌平日)、館内整理日、年末年始(12/29~1/4)
- 入館料 一般: 300円 大学・高校生: 200円 20人以上の団体は二割引

入館料免除の方①70歳以上の方 ②障害者手帳等をお持ちの方(付き添い1名含む) ③中学生以下の方

●お問い合わせ: 我孫子市鳥の博物館
〒270-1145 千葉県我孫子市高野山 234-3
☎: 04-7185-2212 FAX: 04-7185-0639

